

AIE

(平成30年12月13日)現在2歳5ヶ月

去年8月より八時

生

- ・言葉の理解、発語等知能については1歳から1歳半の発達とみられる。(実践的保健師)
- ・発語も少なく、拒む際は「いや！」と言って泣きさけんだりとぐずることが多い。
- ・ぐずっている際は、暴れること多く、ものを投げたり他児に噛みつきや髪を引っ張ることがある。
- ・噛みつきも、跡が残るほど強く噛むことがあり、その都度保護者に伝えている。家では、姉との喧嘩で噛みつくことが多いとのこと。(保護者の反応としては、「すみません」と謝罪をし、相手の保護者の様子も気にしてはいる)
- ・噛みつきも特にトラブルが起きたという状況ではない中で起きことがある。その場で“いけないこと”と本児には伝えるが、「いや！」と言って、ぐずる。
- ★ 本児がぐずった際は、本児が自分でクールダ운できるように端のほうに移動させていたが、頭を打ったり、戻ってくることがあるため、一対一で関わり、落ち着くように働きかける。その方が、切り替えが早かったり、他児に怪我をさせることもほぼなくなる。
- ・クールダウンとして、隅に寄せて囲いをしようと考えたが、本児が嫌がり出てきてしまうことがあるため辞めた。
- ★ 集団行動が苦手なので、1日の進め方も他児とは異なり、本児の行動を優先させて次の行動に促している。
(朝の会や昼食前、手洗いや椅子に座るという行動ではなく、遊んでいたらそのまま遊ばせておく。保育士からの声掛け「おやつだよ」「座るよ」等の声掛けもせずそのままにしておく。→絵本やおやつを食べ始めると気づいてか自分の席に座る。)
- ★ 家から大きなバスタオルを持ってくる。本児の安定剤になるようで、ぐずった際に渡すと落ち着く。(散歩用の上着も)
- ・食事について、昨年食べられるようになってきたが、今年に入っておかずのみと他の食事を摂らなくなる。家でもおかずのみと偏食が続いている。前に食べ過ぎて嘔吐したことがあり、そのトラウマになっているのかと保護者も気にしていた。
- ・以前に、保護者に区役所から発達について相談の促しがあったが、「本人が可哀想」と言って行くのを拒んでいるとのこと。
- ・公園の水道がお気に入りで水道から出る水をずっと見つめて容器に入れるのを繰り返し行う。
- ・保育士を見て、態度を変えることがある。~~本児Aくんがおちついであります~~
- ★ 本児が遊ぶ際は、周りに保育士がついたり他児が近くに寄らないように注意している。
★ ~~担任だけ注意を払うたけではなく、イヤカラスの保育士にも注意を払ってもらっています。~~
- ★ 何かできてもまずは笑顔に褒めている
- 保護者への対応

**△
<かかわり(対応)>メモ> 記録者 氏家 早紀**

組 (名前)					
月 日	いつ (時間帯)	どうした (状況)	かかわり(対応) (言葉掛け・配慮)	○△×	考えられること
4/26 (日)	昼食前	散歩から帰ってきて、手を洗い、ブロック遊びを始める。	機知嫌良くあそんでいたので、次の行動かのイ尾いや声掛け(はせす)そのままにしておく。 あそんで両足(ひじ)のか自分でイスに戻(もど)る。	○	何か集中している際は本児の機知嫌もよく周囲からも刺激されず落ちついていた。 自分で“食事の時間”と自分で見て分かるのか、イスに座っていた。
(気づいたこと) 目の前のあそびに満足すると、満足されてばかりのイスに次の行動ができていて、保育士は、本児のあそびを優先し、無理にईすことはしない。					

**△
<かかわり(対応)>メモ> 記録者 氏家 早紀**

組 (名前)					
月 日	いつ (時間帯)	どうした (状況)	かかわり(対応) (言葉掛け・配慮)	○△×	考えられること
4/23 (金)	昼食前	自分のイスで「やめてやめ止めよう」と口を押げる。 “いや!”と拒み周囲にいた他児が髪の毛を引っ張る。	髪を引っ張ること(はいりなさい)と伝え、本児がぐずって暴れても抱きこむ背中をさすって落ちつくよう工夫する。	○	本児の笠原に気持ちを一対一で受け止めることにより、安心感ややり替えができるよう感じられる。
(気づいたこと) 嫌な気持ちの行き先が物や他児にあたってしまうので、保育士へか“本児が落ちつまず”そばにいることが良いと思われる。その方がやり替えもおぜり。 (他児にも浮城させない)。					

おわりに(今回の事例から学んだこと・気づいたこと)

- ① AはIF Aのペースや想いがあり、それを出来て下回り健も下回り大切にしているが、
自分が受け入れられ、心機や心に過せる。自己肯定感も持てないようになってしまった。
Aは生活も楽しく心に余裕も出てくる感じである。
- ② 障害には認めてはいけないが極めマグレーの場合、^{どの子にも}保育を心がける
ことが大切である
- ③ カーニー(核心)メモをもとに、皆で話す会、共通理解していく必要がある。
特に良子にはがんばりにがんばるよ、丁寧に伝え、保育士同士連携していくべきが大事。

おわりに…

子どもを信じて見守り、待つだけではなく大切にあり下回りを感じて。
保育士同士話し合って、学び合う風土や質の高い保育ができると思う。
保育を振り返り、子どものこと

事例 1

年長児Aちゃんについて

普段から安心できる特定の友だちと遊ぶことが多く、他の子と遊び込む姿があまり見られないAちゃん。しかし周りをよく見ていて、いろいろな友だちに対してアドバイス（その場に一緒にいる保育者に伝える）することがあります。そこで手伝うように言ってみたり、一緒にやってみないかと誘ってみたりしますが、なかなか実際に自分が参加するところまでいきません。もちろん見て学ぶことも大切にしたいですが、自分の思っていることを友だちと共有し、やってみることで友だちの輪が広がる、自信を持つ等のきっかけになるのではないかと考えています。また、保護者も人間関係についてや、「本当はやりたい！と思っていることを、やりたいと言えていないのではないか」ということを心配されています。

同じクラスのBくんがアサガオの種を持ってきました。

図鑑で調べながらプランターに種を植えようとしていると、「何してるのでー？」

「ぼくもやりたいー！」といろいろな子が集まっています。

Aちゃんも近くにやってきて、「指で穴をあけて種を入れるんだよ。」と

自分の知っていることを教えてくれました。

Aちゃんの人間関係が広がるきっかけになればと「一緒にやる？」と声を掛けましたが、

「良い。」と言って部屋に入ってきました。

ただ本当にやりたいと思っていなかっただけなのか、やりたかったけど入ってこれなかったのか…。

Aちゃんは安心できる特定の友だちと過ごすことが多く、人見知りです。

Bくんに「私も植えて良い？」と聞くのが恥ずかしく、一步踏み出せなかったのかも知れません。

その場に仲の良い子がいなかったのも関係しているのかな？

種を植えた後、Bくんはプランターに立てる看板を作ることに。

「ひらがな書くの苦手。」というBくんに、ひらがな書くのが得意なAちゃんのことを話すと

「手伝ってもらいたい。」ということで、Aちゃんにお願いしに行きました。

Aちゃんは少し悩んだ末、「良いよ。」と承諾し、2人で看板作りをしていました。

事例 2

年長児Cくんについて

友だち（特に女の子）が大好きで、よく抱きついている姿を見ます。

「もう～。」と受け入れる子もいますが、もちろん嫌がる子もいて、「やめて。」と伝えますがなかなか辞めないCくん。その子も段々口調が強くなり、本気で嫌がりますが

辞めようとしないことが多く、そのときはお互いのフォローをしに間にります。

自分の思いをうまく言葉にできないことも多々あり、友だちに誤解されることもしばしば。

ある日「Cくんが嫌だって言っても追いかけてくる！」と言いにきたDちゃんに

「もしかしたらCくんはDちゃんに何か言いたいことがあるのかも。」と声を掛けました。

DちゃんがCくんに聞いてみると、「(Dちゃんと)一緒に遊びたかったの。」と小さな声で言いました。

友だちに自分の思いを伝える経験をたくさんしてほしいです。

また、自信がない様子もあるので、成功体験をして自信をつけていってほしいです。